



人権教育だより



那須町立高久小学校
令和8年1月27日発行
第8号

人権教育だより第1号では、日本や世界には様々な人権問題が存在しており、各教科等の授業において人権問題を取り上げ、指導していることをお知らせしました。今回の人権教育だよりでは、様々な人権問題の中から、「外国人」と「インターネットによる人権侵害」について学習した活動について、活動の様子や児童の感想を御紹介します。

《「世界に目を向けて ユニセフ親善大使 黒柳徹子」 ～同じ人間として、自分ができること～（5年生道徳）》

1月21日に5年生で人権に関する授業を行いました。今回は5年生の道徳「世界に目を向けて ユニセフ親善大使 黒柳徹子」（国際理解・国際親善）という教材です。ユニセフ親善大使として25年間、アジアやアフリカを訪問してきた黒柳徹子さんの思いに迫ることを通して、今の自分にできることを考えました。今回の授業は、文部科学省ホームページにある人権教育アーカイブコーナーに掲載するため、動画撮影も同時に行われました。



複数のカメラに囲まれた中での授業。緊張感が高まります。



授業の初めに、子供たちにとって身近な外国人であるA L Tのジョイス先生から、フィリピンの現状について教えていただきました。フィリピンは、貧富の差が激しく5歳から働いている子供がいること、山や川を渡るなど危険な通学路を歩いて学校に通っている子供がいることなどのお話がありました。

その後、すべての子供は「子どもの権利条約」によって、生きる・育つ権利や教育を受ける権利が守られていること、世界に目を向けると、その権利が守られていない現状があることを確かめました。

それから、教材を読み、黒柳さんの思いを一つ一つ考えていきました。黒柳さんは、世界の約90%の子供たちが辛い状況で暮らしていると知ることができ、「ありがたい」と思っていたと分かりました。

授業の最後には、「国際理解・国際親善とは何か」を考えました。子供たちからは「現状を知ること」「仲を深めること」「自分にできる支援をすること」などの意見が出ました。

授業を通して、世界の子供たちの現状を知り、外国人に関する人権問題に気付くことができました。これからも様々な人権問題について学ぶ機会を設け、それぞれの問題に対して、どう行動していくのかを一緒に考えていきたいと思ひます。

多くのカメラと参観者に囲まれた中での授業でしたが、一生懸命考え、意見を発表していました。



《インターネットによる人権侵害～インターネットを正しく使おう！～》

12月20日（土）に、宇都宮大学の川島芳昭教授を講師にお招きし、親子人権教室を行いました。講話では、LINE など、文面だけのやりとりを行う際は、誤解を招かないように正しい言葉遣いや記号を使っているかを確認してから送信すること、SNS上には誤った情報があることを知り、誤った情報に振り回されないようにすること、長時間、YouTube やゲームをすることへの危険性などについてお話いただきました。



スマートフォンの使い方について、どこが間違っているのか、みんなで考えました。



当日は、たくさんの保護者の皆さんにも参加していただきました。ありがとうございました。

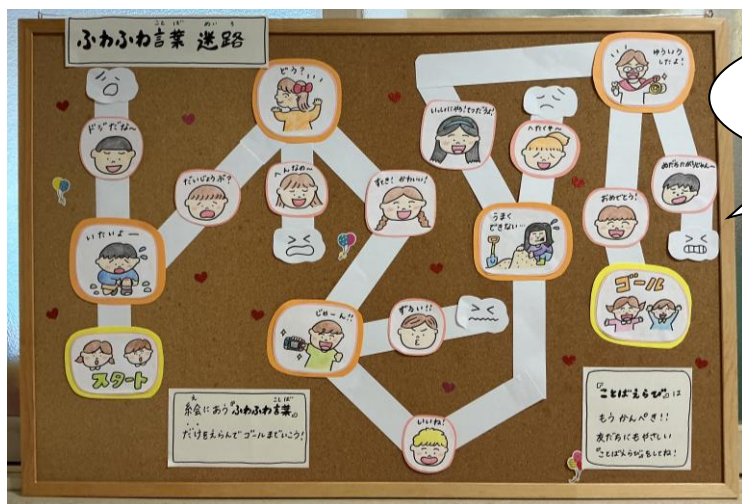
児童からは、「ラインやSNSでは、悪口を言ったり広めたりしないように気を付けたいです。」「メッセージなどは一文字変わるだけで、文章の意味が違ってしまうということが分かりました。」「相手が嫌な思いをしない言葉を選んで話すことが大切だと思いました。」「スマホ依存症にならないように、家族で使い方を再確認するきっかけになりました。」などの感想が出ました。

インターネットの危険性をきちんと理解した上で、正しく使っていけるよう、今回学んだことを生かしてほしいと思います。御家庭でも、ぜひ話し合ってみてください。



《完成！ふわふわ言葉迷路》 ※児童の皆さんも一緒に読んでみてください！

皆さんは「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」を知っていますか？ふわふわ言葉は、元気になったり嬉しくなったり楽しくなったり…相手を笑顔にしてくれる言葉です。一方、チクチク言葉は、悲しくなったりせつなくなったり泣きたくなったり…相手をしょんぼりさせてしまう言葉です。誰かがけがをしているのを見かけたら…？うまくできずに困っている友達を見かけたら…？どんな言葉をかけるとよいでしょうか。楽しみながらふわふわ言葉について考えられる「ふわふわ言葉迷路」ができました。ぜひ挑戦してみてください。



保健室の前に掲示してあります。来校した際に、ぜひ御覧ください！

